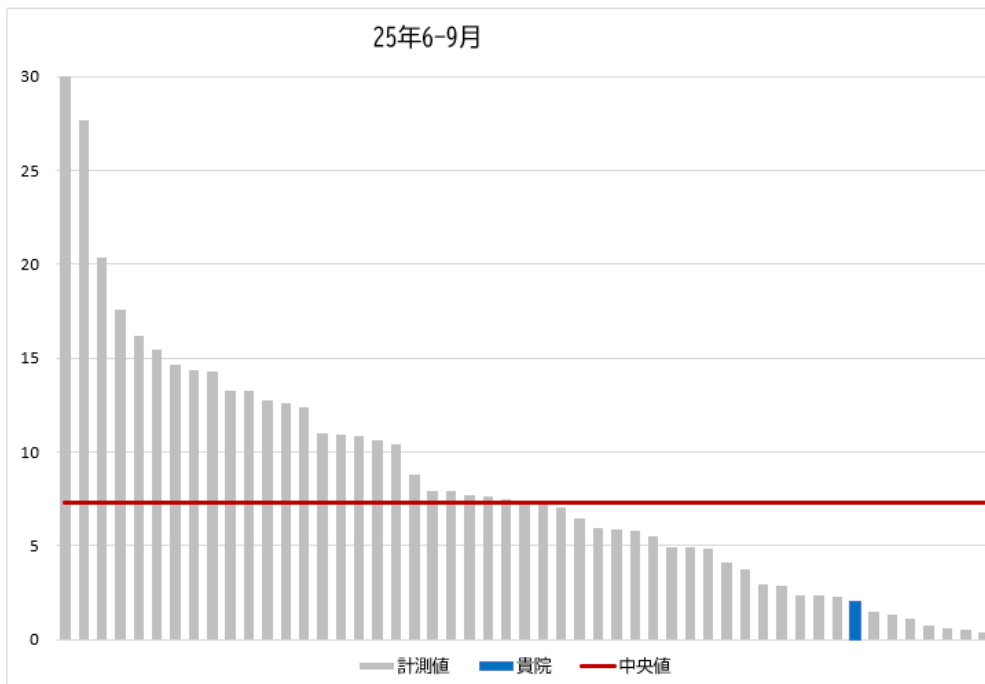


当院は日本医療機能評価機構が主催する「医療の質可視化プロジェクト」に参加しています。2025年の6月-9月のデータを公開します。

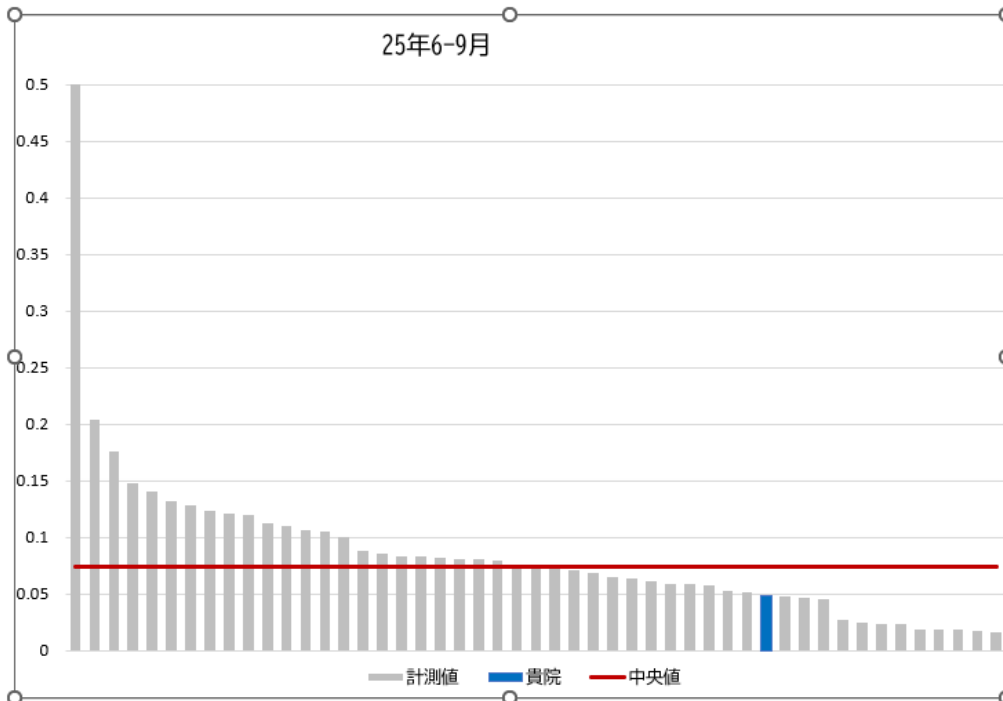
(病床 200-299、開設主体：医療法人、DPC 参加状況：標準病院群で抽出しています)

指標名 身体的拘束の実施率 [単位：%]



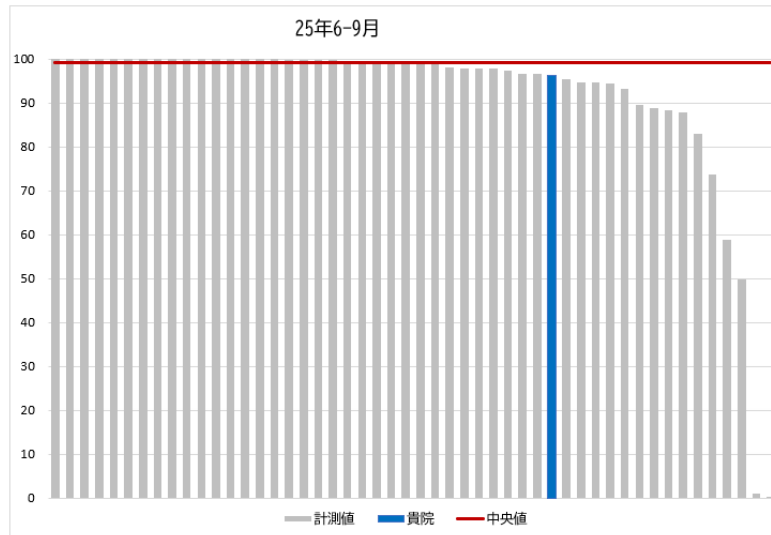
● 身体拘束率は確実に減少してきている。

指標名 d2 (真皮までの損傷) 以上の褥瘡発生率 [単位：%]



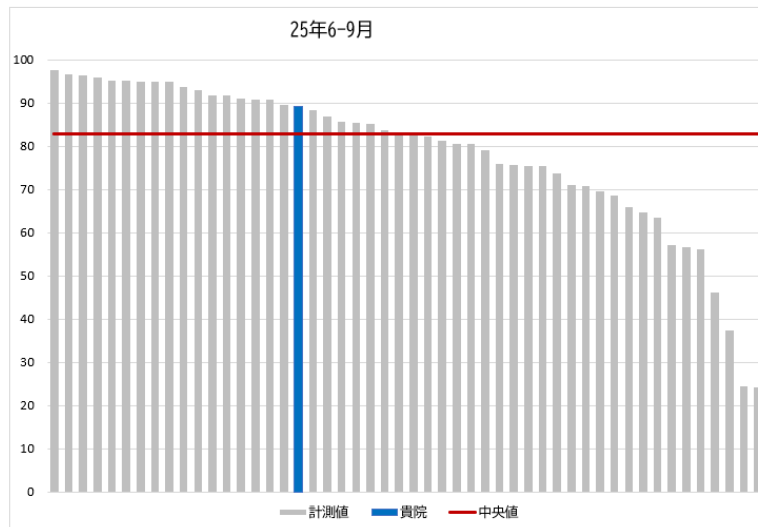
● 褥瘡発生率もかなり低い状況が続けている。

指標名 手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率 [単位：%]



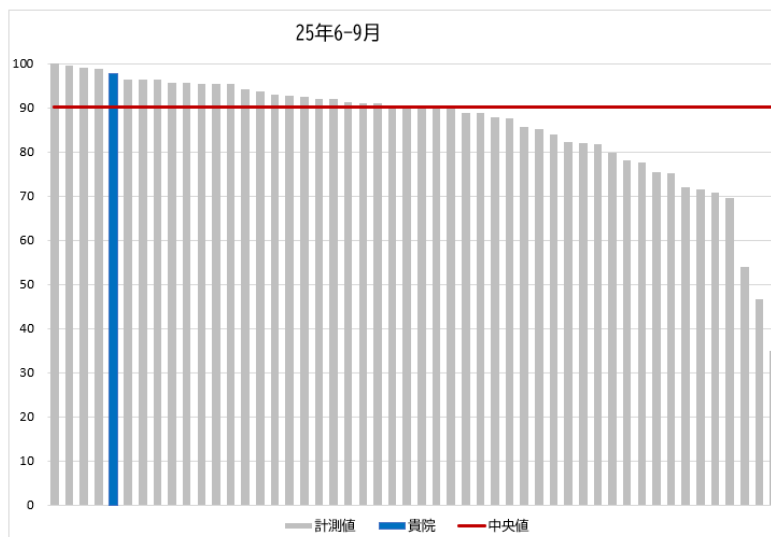
● 100%でないのは、緊急手術もあり、局所麻酔による小手術もあるための結果と考えられる。

指標名 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率 [単位：%]



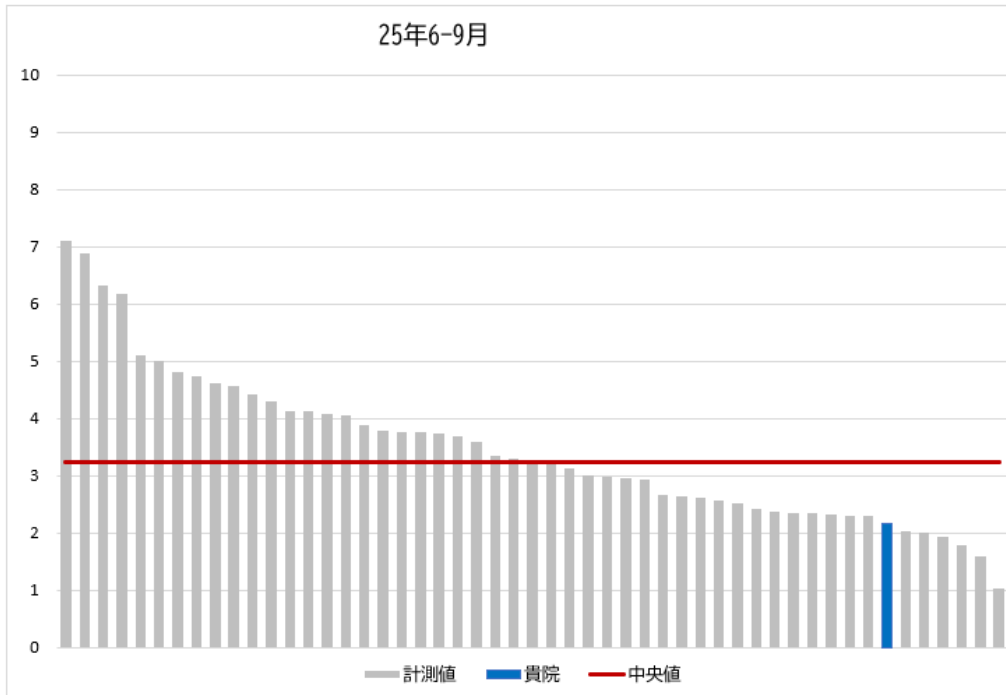
● 今後も 100%を目指して ICT&AST 活動を続ける。

指標名 血液培養2セット実施率 [単位：%]

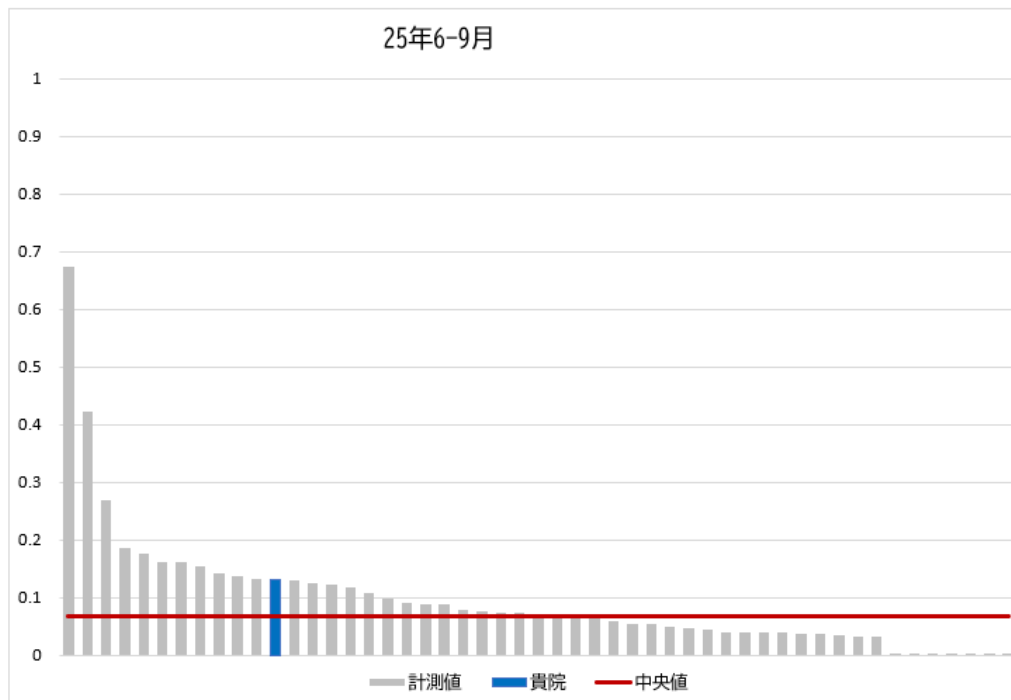


● 問題ない数値である。

指標名 転倒・転落発生率 [単位：‰]



指標名 転倒転落によるインシデント影響度分類レベル3b以上の発生率 [単位：‰]



- 転倒率は低いですが、転倒が発生すると3b以上になる割合が多い状況である。

上記の指標に関しては良い状況が続いていると思われる。

しかし、転倒発生時の3b（骨折など）の割合が多い要因分析が必要と思われるが、2024年10月から2025年5月までのデータを見ると、今回の時期（2025年6月—9月）のみが多高い状況のようである。今後しばらく経過観察とした。